



## 「自走型食品支援モデル」で 事業系食品ロス削減を促進

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



草加商工会議所では、全国に広がるような、「草加商工会議所SDGsモデル」の構築を目指しています。食品ロス削減の取組として、会員企業の全栄物産株式会社と連携し、事業系食品ロス削減を目指すコミュニティフリッジ(公共冷蔵庫)事業を令和4年6月17日より開始しました。



### 草加商工会議所

草加市では年間約4,500tのまだ食べられる食品を処分しているという試算もあり、これまでも会員企業からは、ロスになってしまう食品の活用について相談を受けていました。

そこで、全栄物産株式会社の提案を受けて、事業系食品ロスを積極的に活用し、事業者の廃棄コストから運営費を負担する「自走型食品支援モデル」としてコミュニティフリッジ事業を開始しました。

全国に広がるような、草加版の新しい食品循環モデルを目指しています。

### 全栄物産株式会社

当社が運営するスーパーゼンエーは、食品ロスを削減するスーパーとしてスタートしました。

規格外であることや3分の1ルールによって、一度流通ルートから外れてしまったものを、再び流通に戻す「フードリカバリ」という言葉を通じて、そういった食品ロスがあることを知ってもらい、理解が広がることを目指しています。店頭では、規格外野菜や工場のアウトレット商品などを、ロスとせず消費者に提供しています。

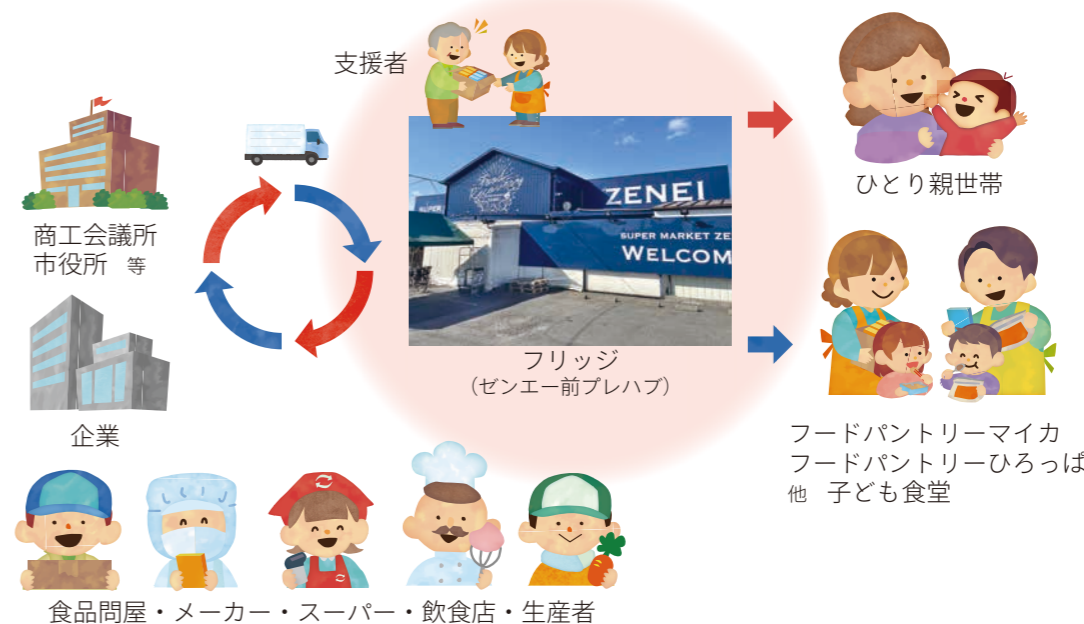
## 食品ロス削減のために

コミュニティフリッジは、さまざまな事情により生活に困難を抱える人に食品などを無償提供する欧州で始まった取組です。全栄物産株式会社の輸送網を活用した回収便で市内を巡回し、メーカー、スーパー、飲食店などから余った食品を回収し、スーパーゼンエー草加店の敷地内に設置された大型冷蔵庫と冷凍庫に随時収納します。登録を行った利用者は、24時間365日、時間や人目を気にせず都合の良い時に食品を持ち帰ることができます。食品の提供者も登録制としているため、食品の安全性も確保できるしくみです。

3分の1ルールにより流通から外れた食品を寄付しようと思った時、賞味期限まで十分な期間がなく、一般的な寄付のルートを活用できないことがあります。どんなものでも扱えるようなしくみを作りたいと思った時、コミュニティフリッジの活用を考えました。食品を提供する人も、受け取る人も、随時活用できるしくみのため、無駄のないやり取りが可能となっています。提供いただいた食品を迅速に活用することができるので、農家の方から青果物をいただくこともあります。また、冷蔵庫や冷凍庫を完備したことにより、一般的な寄付などでは扱えなかった冷凍食品やお肉を取り扱うことができるようになり、ロスとせず活用できる食品の幅が広がりました。



コミュニティフリッジの取組により、規格外野菜や期限が短い食品など、食品ロス全体としての消費者の理解が広がったと感じています。



### 草加商工会議所からのメッセージ

コミュニティフリッジは、子育て中の貧困世帯と、食べられる状態で捨てられてしまう食品をつなぐ施設です。現在、草加では約500世帯が利用登録しており、食品をいれてもすぐになくなってしまいう状況です。食品をご寄付いただける方、企業の方がいらっしゃいましたらお声がけください。食品循環のための草加モデルをより多くの方に知っていただき、食品ロスを地産地消で解決できるよう、これからも取り組んでまいります。